

「倉敷市健康増進・食育推進計画（素案）」の パブリックコメント集約結果

「倉敷市健康増進・食育推進計画（素案）」について、「倉敷市パブリックコメント手続要綱（平成21年12月8日告示第683号）」に基づき市民の皆様から広く意見を募集しましたが、その結果は次のとおりです。

記

1 意見等の件数 2人 13件

2 御意見と市の考え方

次ページのとおりです。

3 今後の予定

倉敷市健康増進計画審議会及び倉敷市食育推進会議から計画策定に関する答申をいただいたのち、令和6年3月に計画書を確定し、令和6年4月より計画を推進します。

4 参考

意見募集期間 令和5年11月1日（水）～11月30日（木）

御意見をお寄せいただきました皆様の御協力に、厚くお礼申し上げます。

倉敷市保健所 健康づくり課 健康管理係、食育推進係

No.	御意見	倉敷市の考え方
1	<p>「たばこ」分野の指標に、「COPD(慢性閉塞性肺疾患)による死亡率」を加えてはどうか。</p>	<p>現在の「COPDを知っている人の割合」に加え、「COPDの死亡率」も指標とします。「COPDを知っている人の割合」を増加させることで、未診断のまま潜在化している方の受診行動を促し、死亡率の減少を図ります。</p>
2	<p>健康要因の一つが「食」にあることから、健康増進と食育推進を統合し「健幸」としたことは評価できる。ただ、この造語が46万余人市民の自認健康者88.1%(P17)にも浸透し、三次計画を確実に実行させる手段はあるのか。本格的な人生100年時代に入った第三次期間の12年間確実に推進し目標達成するためには、今までの1次、2次計画の延長では成果は難しい。</p>	<p>計画推進を通じて、「健幸」の言葉に込めた「市民が体の健康だけでなく、幸せで満足している状態」に近づけるよう、しっかりと計画を啓発してまいります。また、これまでの健康づくりでは、主に一人ひとりの健康への意識や行動に重点を置いていましたが、次期計画では、健康づくりを支えるため、市民を取り巻く「環境づくり」の取り組みにも重点を置き、目標達成を目指します。さらに、令和11、12年度に前期計画の評価(中間評価)を行い、その結果や社会情勢等の変化等、状況に応じて計画の見直しを図ります。</p>
3	<p>先ず当該計画の概念浸透には視覚的なキャラクターが、一つの手段だろう。そのためには食育を含めた統合キャラクターが必要だ。「健康くらちゃん」を「<u>健幸</u>くらちゃん」とし、タスキ、またはのぼり旗で「チャレンジ健幸に日本1」等のキャッチフレーズを表示し、3つの目標、達成値、期間等</p>	<p>「健康くらちゃん」は、第一次・第二次倉敷市健康増進計画において、市民の御意見もいただきながら作成し、計画推進に活用したキャラクターです。いただいた御意見を参考にし、さらなる市民への浸透を図り、健康づくりの啓発に活かしたいと考えます。</p>

	<p>補足付記すれば一つのマスコットキャラクターで理解される。</p>	
4	<p>事業内容を個人または家庭・家族に認知させるためには単に「保健所たより」での広報だけでなく5地域大型公園等に広告看板を設置又は公園トイレの壁を活用し、ラッピング等で重点課題を定期的にアピールする工夫をしないと当事者の自己満足に終わる。笛吹けど市民は踊らない。そのためにはハード面の予算もしっかり計上されたい。</p>	<p>計画を広く周知するための方法につきましては、いただいた御意見を参考に、庁内関係部署とともに検討してまいります。</p>
5	<p>2つの理念、3つの目標、7つの重点課題を、現状値と達成目標数値をハザードマップみたいに一覧表化し詳細は補足として当該報告書に戻るようにし、各自、各家庭で課題提起し実践する工夫をされたい。地域や行政通知だけでは浸透が難しい。地域にもよるだろうがコロナ以降地域のつながりは想定以上に極端に希薄化している。従って、実践のベースは個人家族・家庭に浸透させることも重要である。健幸行動手帳の様な実施メモ的なものを渡し実践結果で後述のインセンティブ付与に活用できないか。</p>	<p>計画推進にあたっては、計画書とともに「概要版」も作成する予定です。概要版では、理念や重点目標等の項目を一覧にしたものや、一人ひとりの健康づくりの取り組みの記載スペースを盛り込んだものを検討しており、より多くの市民に、計画に基づいた健康づくりの取り組みが浸透するよう、活用してまいります。</p> <p>※インセンティブについては、12で回答。</p>
6	<p>7つの重点課題の現状値と目標値を設けているが、目標金額効果まで示</p>	<p>全国的に、健康づくりの分野に限らず事業の必要性や効果を市民に分かりやすく伝</p>

	<p>さないと活動のドライビングホースは上がらない。未実施時の逸失金額、即ち、医療負担金額が損失金額。当該金額から関係者の労務費とソフト、ハード合計値が下回ればそれが事業成果金額だ。ここを工夫することが行政の腕の見せ所。IT・AI活用で推計できよう。目標事業金額効果ができれば、個人、家族・家庭の幸せのみならず、参加者は立派な社会貢献者になり行動意欲がわいてくる。実行しなかった場合の、個人リスク、周辺悪影響（受動喫煙等）を強調し健幸予防行動の啓発も必要だ。</p>	<p>えるため、御提案いただいたような手法を効果的に活用している事例が見受けられます。いただいた御意見を今後の参考とさせていただきます。</p>
7	<p>ハード費用予算には上記看板ラッピング等広報と共に、地域住民が散策、ジョギング、ウォーキングできるソフトコンクリート専用通路を5地域の大型公園内に設置予算も計上されたい。「まちあるきコース」は自転車、車、信号等制約が多く利用者は殆どいない。公園内はこの制約がなく体力に合った散策、運動、健幸づくりが出来る。そこに上記看板やラッピングで、例えばP23下の絵を視覚的に示し、正しい歩き方は認知症防止効果があること等を示されたい。踵からの歩行習慣は、転倒防止になること等視覚</p>	<p>次期計画においては、運動習慣者を増やすための取り組みとして、歩きたくなる街づくりに努めることとしています。</p> <p>自然に運動習慣を身につける環境づくりを効果的に推進するために、庁内・庁外の関係者や関連団体と連携してまいります。</p>

	<p>で示せば、効果も倍増しよう。これ等も成果金額を計上すれば市民も設備投資に異論はないだろう。公園は憩いの場であり球技・競技場ではない。予算化、設備具現化には、市議会保健福祉委員会にも支援協力を求められたい。</p>	
<p>8</p>	<p>食育に関しては今回の課題の先頭に持ってくるべきではないか。ただ、「3ベジ」は認知されていないし、これからも分かりにくい。それぞれ野菜、副食から食べることが内臓負担をやわらげ「通じ」がよい、即ち便秘防止効果があるとか、身近な効果を持ってこないと専門家ではない一般市民には分かりにくい。健幸キャラクターにどのように盛り込むか検討されたい。</p> <p>胎児から幼少期に健全な食育が出来れば、その後の健康に大きく寄与することは広く認知されている。食育を夫婦間家族観で共有されるべく男性の子育て責任を強く醸成すべきだ。貧しくともこの間に愛情豊かに育てられた子供達は、その後、心豊かな人間に育つことも研究報告されている。</p> <p>健全な食育のために、広告等で蔓延している健康食品、効果の怪しいサブ</p>	<p>健康増進計画と食育推進計画を一本化し、健康づくりの取り組みを強化するだけでなく、食育も強化していくこととしており、食育の輪も一層広げていこうと考えています。健康づくり以外の要素が含まれるため、「食育」を7分野の最後に記載しています。</p> <p>キャラクターの活用や健康食品・サプリメントに対する御意見は、参考とさせていただきます。</p>

	リメントへの警鐘も積極的に取り組みも必要ではないか。	
9	過去の結果、糖尿病と高血圧症を指摘しているが、例えばP5の血圧比較図等、年齢層別に示さないと意味がないのではないか。特に高齢者は上が140以下、下が90以下を正常値と公認されている。多少の変動は許容され、むやみに降圧剤を服用する必要はないと言う報告もある。	ここでは国民健康保険特定健診結果を用いて、国や県と比較して、高血糖と高血圧が倉敷市の特徴的な健康課題であり、前計画に続いて重点的に取り組む必要性を示すための一指標としています。健康増進計画審議会の構成委員である医療専門職の御意見もいただきながら進めてまいります。
10	肥満等を強調しているが高齢女子にはBMI18以下の痩せ老人も少なくない。(P17では16.5%) 食事、運動はむしろ肥満者より配慮しているが体重が増えず、結果として骨粗しょう症等が多いと考えられる。受診を勧める前に行政のPHN(保健師)、RD(管理栄養士)が個別指導も検討できないか。	計画において、健康管理分野で「高齢者の低栄養傾向(BMI20以下)の割合」をあげており、現状の17.2%から目標値の10%となることを目指します。それに向けてライフコースアプローチの視点をもって関係部署・団体と連携しながら、高齢者の適正体重の維持やフレイル(健康と要介護の間の虚弱な状態)予防のための取り組みも強化してまいります。 なお、P17の高齢者の低栄養傾向(BMI20以下)の割合につきましては、素案にて16.5%と記載しておりましたが、正しくは17.2%でした。訂正いたします。
11	人生100年時代を迎え75歳以上を「後期高齢者」と呼ぶことは高齢者の精神的な生きる意欲を阻害する。 80ないし85歳ぐらいまでは老人	社会的なつながりを持つことは心身の健康や生活習慣の改善によい影響を与えているとされています。計画では、「社会活動を行っている高齢者の割合」を指標の一つに掲

	<p>でも「若年老人＝若老」としそれ以上を高齢者等に呼称を変え、精神面からも若さを保つことで、自ら健康寿命延伸努力を推進する工夫も考えられたい。倉敷発「若老」宣言でも良いか。</p>	<p>げ、高齢者の就労、ボランティア、通いの場といった居場所づくり等の社会参加を通じて、社会的なつながりを推進します。</p> <p>いただいた御意見は参考とさせていただきます。</p>
12	<p>目標達成のために計画の実践に取り組んだ市民に、何らかのインセンティブを与えられたい。何もトップランナーを表彰するのではなく食育、健康づくりの自己目標達成者を努力賞として報奨し、幅広く当該事業の底上げを図られたい。ロゴ入り帽子、下敷等。</p>	<p>市では「くらしき健康ポイント事業」を行っています。この事業は、ウォーキング等の健康づくりへの取り組みやイベント参加、健(検)診受診等にポイントを付与するしくみです。スマートフォンのアプリや専用用紙を用いて参加でき、一定のポイントが貯まると、特典(インセンティブ)が受けられます。いただいた御意見も参考に、市民一人ひとりの健康づくりの目標達成につながるような事業展開を検討してまいります。</p>
13	<p>高齢者医療費は個人にとっても、行政にとっても大きな負担である。予防健診は重要だが、高齢者は長年の自己体調管理経験から、むやみに医療機関受診を勧めるべきではないという産業医もいる。近年、単科クリニックの増加、基幹病院等の専門制が進み、複数疾患老人の多薬服用による薬害も指摘されている。当該計画の食育・運動を推進し、少しでも服薬数等を減らすことが出来れば立派な社会貢献になる。ライフステージに合った受診行</p>	<p>いただいた御意見は、参考とさせていただきます。</p>

	動と医療関係者の指導も人生100年時代の保健行政課題である。	
--	--------------------------------	--

パブリックコメント要約版

1 案件名
倉敷市健康増進・食育推進計画(素案)について
2 募集期間
令和5年11月1日(水)～令和5年11月30日(木)
3 趣旨・目的・背景
<p>倉敷市では、市民の健康寿命の延伸を目的とした倉敷市健康増進計画「健康くらしき21・」及び食育を通じて健全な心身を育むことを目的とした第二次倉敷市食育推進計画を策定し、市民の健康づくりに取り組んできました。</p> <p>今年度は両計画の最終年であり、令和6年度からの新計画を策定するに当たり、市民の皆さまのご意見を募集します。</p> <p>なお、両計画は重なる部分が多く、これまでも計画の推進に当たり多くの取り組みを一体的に行ってきたことから、次期計画はひとつの計画として策定する方針です。</p>
4 概要
<ul style="list-style-type: none">・「みんなでつくる 元氣なくらしき～誰ひとり取り残さない健康づくり～」を理念とし、基本目標として「健康寿命の延伸」「健康格差の縮小」「食を通じた豊かな生活の実現」を設定します。・一人ひとりの健康づくりを、「健康管理」「運動」「休養」「たばこ」「飲酒」「歯・口」「食育」の7つの分野で進めます。推進に当たっては、胎児期から高齢期まで生涯を通じて健康づくりに取り組む、「ライフコースアプローチ」の視点を取り入れます。・健康づくりを支える環境づくりを、「自然に健康になれる環境づくり」「持続可能な食を支える環境づくり」「人と人・人と社会をつなぐ地域づくり」の3つの視点で進めます。
5 資料閲覧場所
保健所健康づくり課、児島・玉島・水島の各保健福祉センター保健推進室(真備保健推進室を含む)、庄・茶屋町・船穂支所、本庁国民健康保険課
6 提出方法
健康づくり課へ持参、郵送(必着)、FAX、Eメール (持参の場合は土・日、祝日を除く8時30分～17時15分)
7 問合せ先
倉敷市保健所 健康づくり課 健康管理係、食育推進係 〒710-0834 倉敷市笹沖170番地 ;086-434-9820、086-434-9868 FAX;086-434-9805 アドレス;hlthlt@city.kurashiki.okayama.jp